

大宮第二公園「田んぼ学校」第4弾

見沼の縄文文化

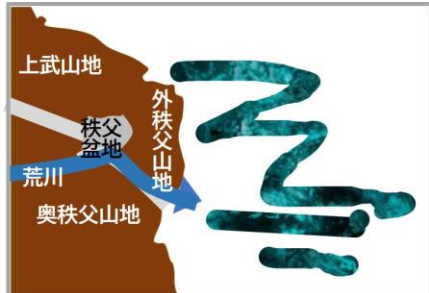


2025年 8 月23日(土)13 : 30～14 : 30

I 埼玉の骨格を知っておこう

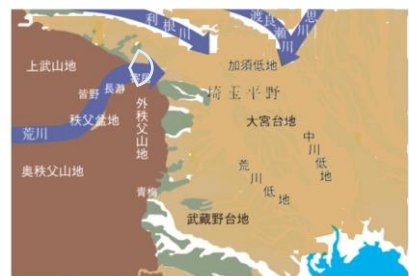
私たちが暮らす大地の成り立ちから、その性質を知る。

日本が位置する自然条件 — モンスーンアジア変動帯にあって、川の浸食・運搬・堆積作用が平野をつくった



新生代第四紀**洪積世(160万年前～)**

- 第三紀後半から100万～40万年前の造山運動で、関東地方の山河の基本形が形成される。
200万年前頃の荒川は秩父凹地帯を流下していた。



- 造山運動最後に**外秩父山地が大きく隆起**。

上武山地との間に出牛(皆野町)-黒谷(秩父市)断層、平野との境界に断層「八王子構造線」。

→**荒川北へ向かう**

- 約10万年前、寄居を扇頂にした「**荒川古扇状地**」形成と思川・渡良瀬川・利根川・荒川4河川の流送土砂で(洪積)**台地**を形成。



- 河川が浸食(思川・渡良瀬川は現中川低地、利根川と荒川は現荒川低地の谷を造る)。
約2万年前、地下谷ピーク。(八潮－50m、栗橋－30m、川口－30m)

新生代第四紀**沖積世(1万年前～、縄文時代)**

- 熊谷大麻生を扇頂にして「**荒川新扇状地(熊谷扇状地)**」形成。
- 地球規模の温暖化で海水上昇し、海水が内陸深く入り込む。「**縄文海進**」ピーク(約7000年前)
- その後の冷涼化による「**縄文海退**」で**沖積低地の形成(約6000年前～)**
- ★ 加須を中心に約10万年前からの「**関東造盆地運動**」による地盤沈降が古墳時代以降顕在化(古墳が3m/1000年埋没)



Ⅱ 縄文時代1万年の見沼

6,000年前頃、埼玉平野は東京湾が海退する過程で海底の谷(地下谷)が埋まり、各地に沼沢地が残されました。そこは地形区分上最も低い軟弱地盤で「沖積低地」と言い、その上を河川が乱流していたので、「河川氾濫原」とも呼ばれます。

見沼も同様に、大宮台地に降る雨が集まって川になり、永い時間をかけて台地を刻み、谷をつくり、そこが縄文海進で海になり、小海退を繰り返しながら広大な沼沢地を残しました。そこが「見沼」です。

そこに生きた人たちの営みを伝える貝塚の主な貝は、岩槻や蓮田と同じハイガイやマキガイが主体でした。そこから見沼は現中川低地に海進した「奥東京湾」の一角にあったと推定されます。

※川口より西の現荒川低地の縄文海進は「古入間湾」と呼ばれます。

縄文時代の見沼の話は、2015度水のフォーラムの市民講座「さいたま水と・みどりのアカデミー」で、「馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム」事務局の鈴木正博さんに伺った話です。「

縄文時代の「見沼」概要

< 草創期 >

約12,000年前～

前葉 緑区にある「**えんぎ山遺跡**」（見沼周囲台地上で一番古いムラ）
後葉 大宮氷川神社裏手の「**寿能泥炭層遺跡**」（見沼周囲台地上で次に古いムラ）
末葉 緑区の氷川女体神社周囲の「**松木遺跡**」等100カ所以上のムラ（見沼文化形成期）

< 早期 >

約9,000年前～

約7,000年前

縄文海進ピーク。現中川流域の「奥東京湾」が群馬県板倉辺りまで進む。現荒川流域の「古入間湾」は川越辺りまで。※見沼は貝塚の主体となる貝から奥東京湾の一角と推測。
→海退始まる。

< 前期 >

約6,000年前～

小海退を繰り返しながら、上流から泥干潟化。

< 中期 >

約5,000年前～

川口辺りまで海退。
泥干潟から湖沼湿地帯になり、見沼では丸木舟が使われる。海進で海を知った見沼の人々は海の干満差を利用して海と盛んにアクセス。

< 後期 >

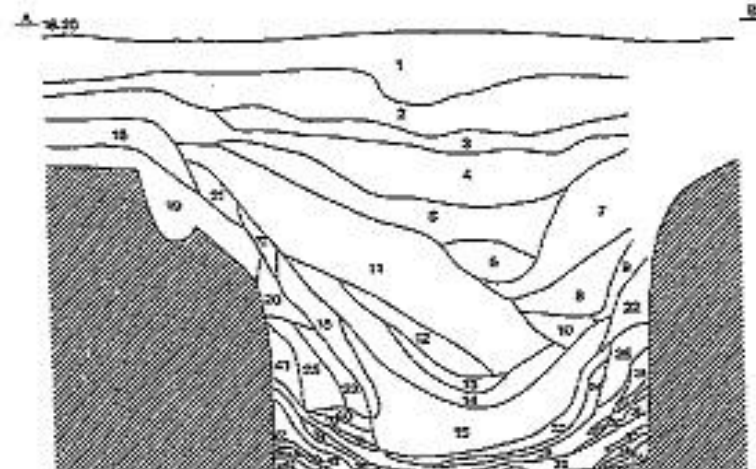
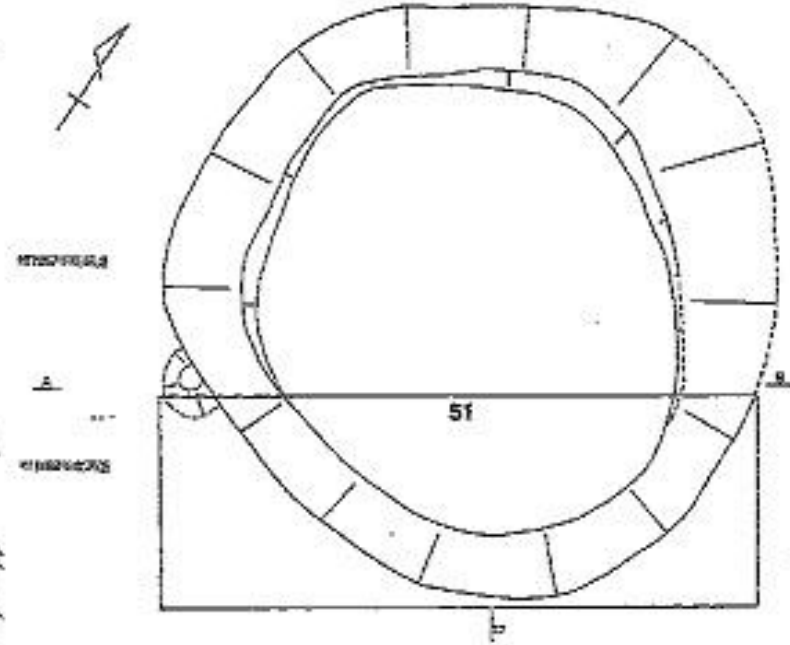
約4,000年前～

< 晩期 >

約3,000～2,400年前

海退ピーク。東流する芝川が南流に変わる、その直前の右岸側崖上に当時のムラの様子を伝える「**馬場小室山遺跡**」（さいたま市立三室中学校の南）。
西日本では約2,700年前に朝鮮半島から灌漑稲作が伝来し、稲作を始めた頃。

「馬場小室山遺跡」の「環堤土塚」と「人面紋土器」



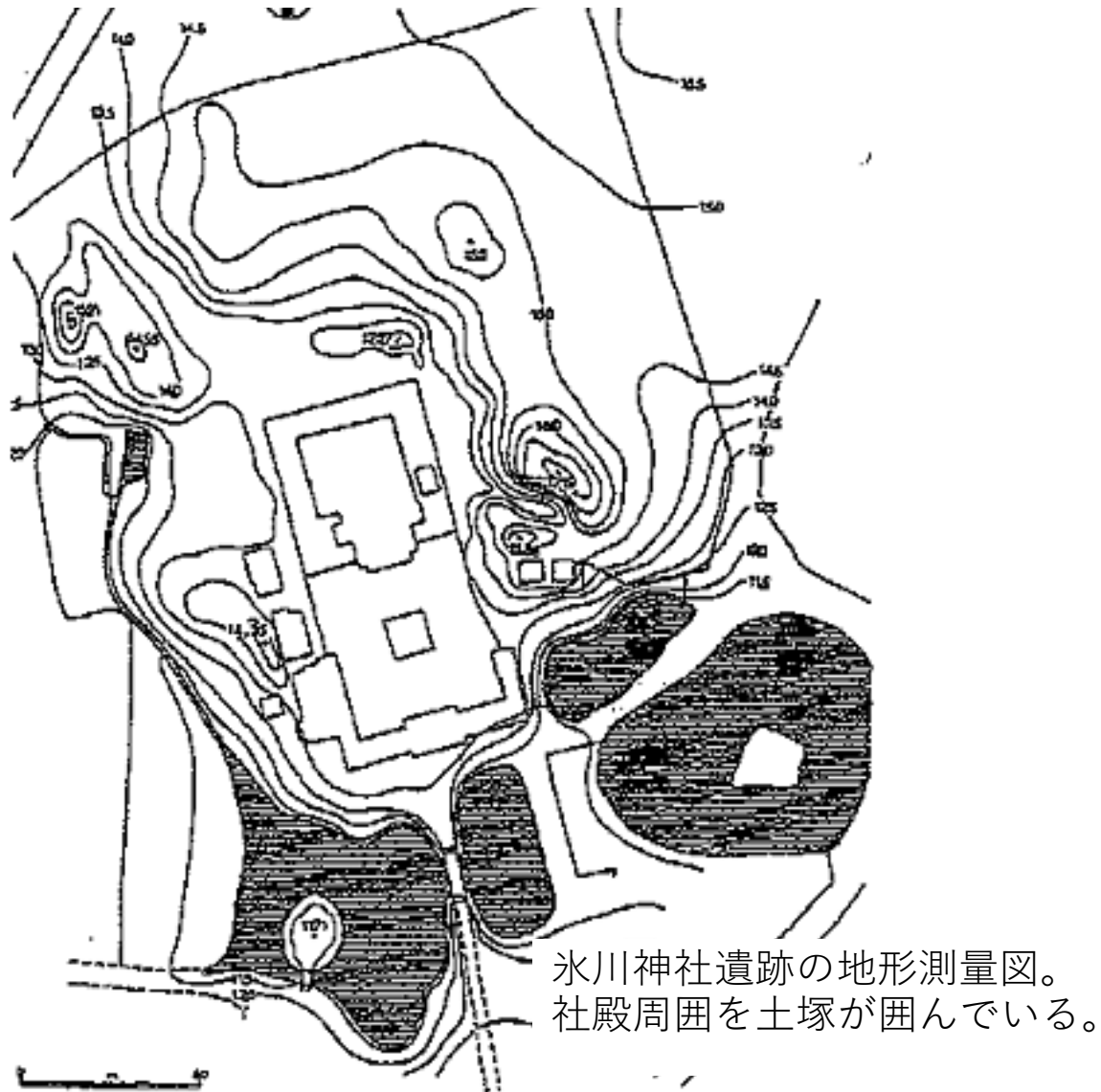
中央に50～60mの大きな窪地。その周囲に大きな土饅頭のような土塚が5つ環状に並ぶ。
この窪地と土塚は、窪地周囲の住宅で誰か亡くなると、そこを廃屋にして墓にし、その隣に住み、そこでまた死者が出ると、以前墓にした所を埋めて、宅地にして住む。その繰り返しで塚が形成されたもの。古墳のように一気に盛り土したのではなく、何世代もかけて用地が高くなった塚と考えられている。この馬場小室山遺跡から「人面紋土器」を出土しました。



人面文土器/
ハート形の顔が愛らしい
さいたま市浦和博物館所蔵

左／馬場小室山遺跡の環堤土塚概念図（×は人面文土器が出土した第51号土壌）出典：埼玉県教育委員会（1985）『埼玉県埋蔵文化財調査年報昭和58年度』の原図を改変
右上／馬場小室山遺跡第51号土壌平面図 右下／馬場小室山遺跡第51号土壌断面図 出典：浦和市教育委員会（1988）『浦和市東部遺跡群発掘調査報告書 第9集』
人面紋土器図出典：浦和市教育委員会ほか（1983）『浦和市東部遺跡群発掘調査報告書 第3集』

BC473年創建大宮氷川神社の「環堤土塚」



出典：大宮市教育委員会(1994)『氷川神社社叢調査報告』の原図を改変

大宮氷川神社裏手に「縄文沼」

見沼の定住を可能にしたのが、低湿地遺跡の「寿能泥炭層遺跡」にみられる通称「縄文沼」。

大宮氷川社裏手の「県立歴史と民族の博物館」敷地からは弥生時代の米を蒸すための「台付甕」が出土し、この辺りでも稲作が行われた証拠になるという。



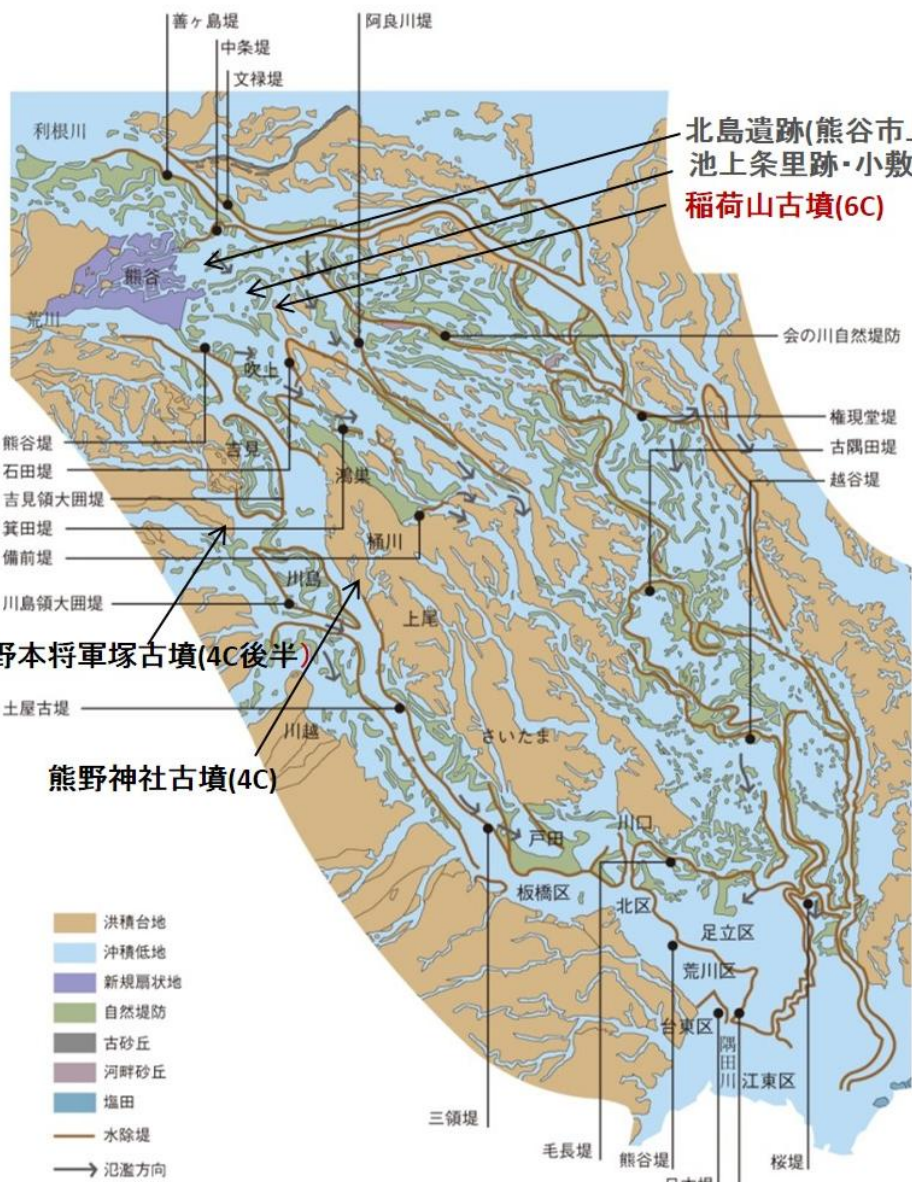
図：中津原都市研究所提供

Ⅲ 本格的稲作は熊谷扇状地扇端部

沼の水は扱いやすいが水量が不足。

熊谷(荒川新扇状地)扇端の湧水に稲作の水を求めた。

熊谷扇状地—扇頂・扇央・扇端部



アーバンクボタ No.19 「利根川治水の成立過程とその特徴」(宮村忠編図、地形は堀口萬吉)を参考に、本

熊谷扇状地の荒川旧河道



熊谷扇状地扇端の条里跡



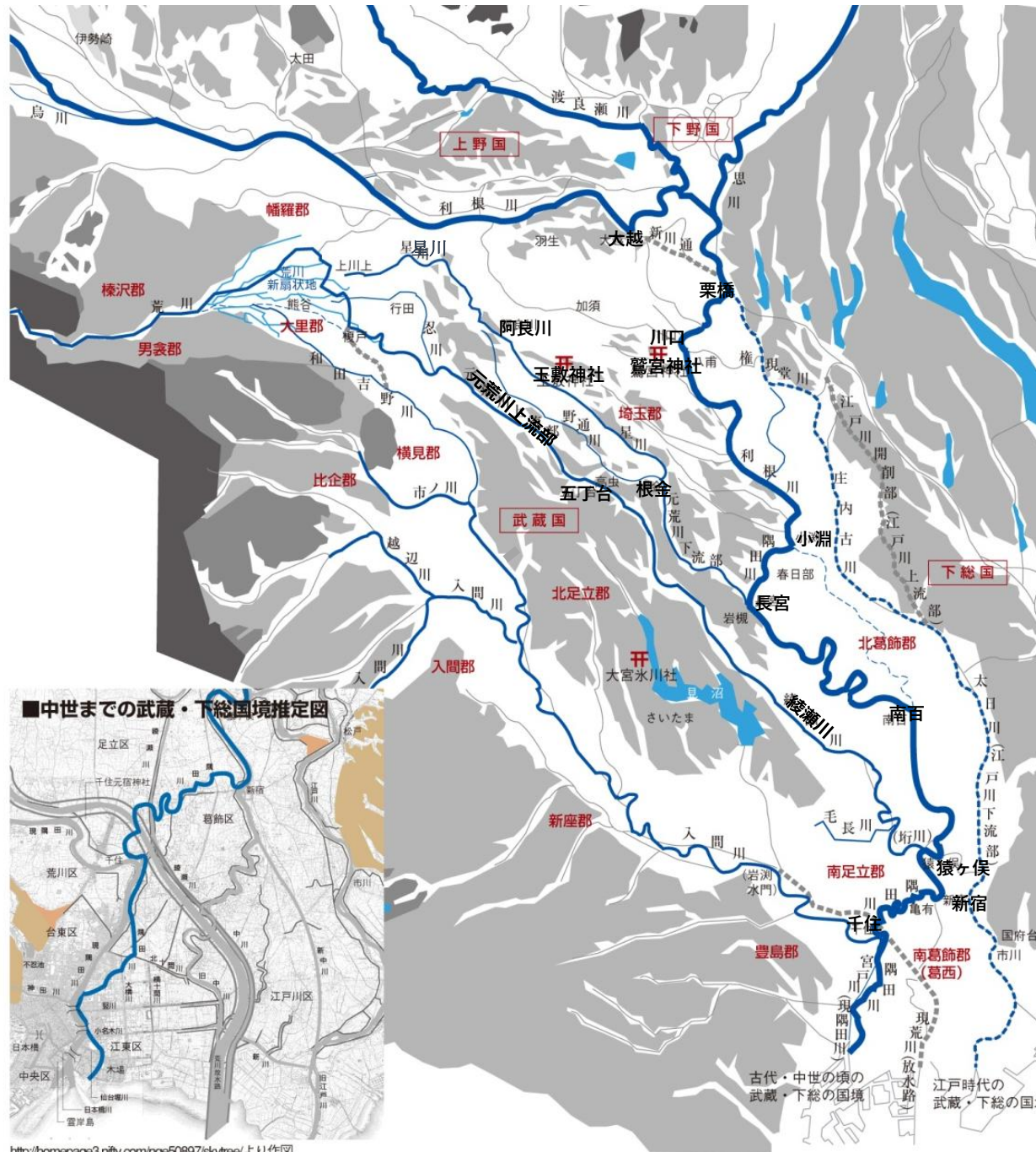
- 大陸で灌漑・栽培技術を5000年蓄積した稲作が西日本に伝わり、200～300年遅れて東日本に伝播。
- 弥生農耕ムラ、1C頃減少し、2C以降、急激に低地に拡大。
- 埼玉では水を得やすい熊谷扇状地扇端や都幾川・越辺川の合流点などに弥生水田跡。
- それぞれ成長したムラ、ムラの長が埼玉古墳群や野本將軍塚古墳に葬られる。

古代の利根川と荒川（701年「大宝律令」国郡里制定から）

武蔵国境：利根川

足立郡境：荒川上流部－綾瀬川

和田吉野川－市ノ川－入間川

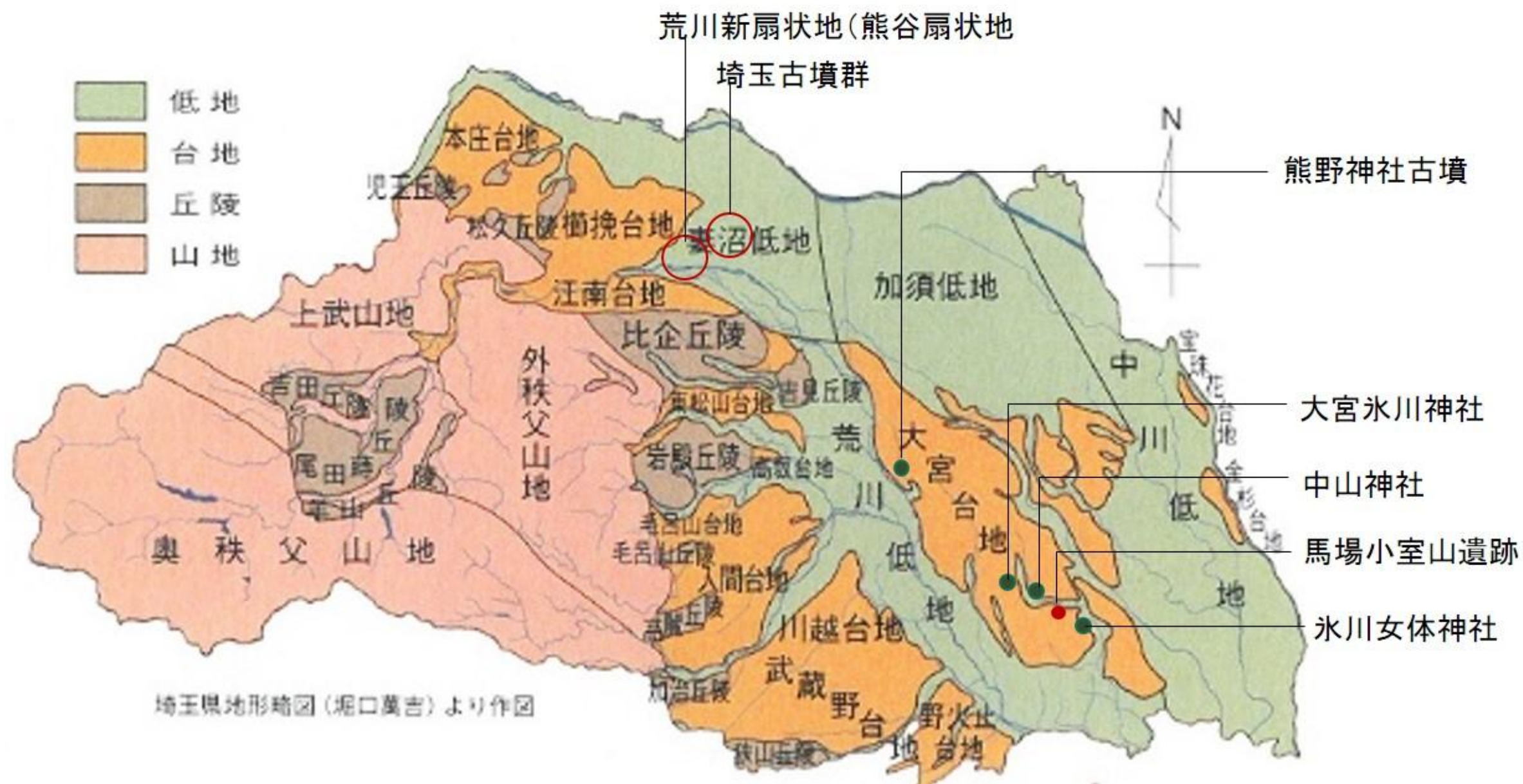


■香取・氷川・久伊豆・鷺宮 各社の分布

図例 人文Ⅲ P.398～401 図を参考に作成

- 香取神社
- 大宮氷川神社
- 氷川神社
- 玉敷神社
- 久伊豆神社
- 鷺宮神社本社
- 鷺宮神社





見沼の縄文文化を継ぐ大宮氷川社・氷川女体神社・中氷川(中山)神社

東京湾との往還等、多方面と交流し満ち足りていた馬場小室山の在地文化は、縄文時代晩期末に姿を消します。晩期中頃の冷涼化で移住してきた北関東やそれ以北の人たちと生活を共有するうちに在地文化が薄れてしまったのでしょうか。

あるいはBC700～600年頃、西日本で稲作が導入され、200～300年遅れて東日本でも稲作が始まり、見沼でも稲作を始めて生活様式が激変したからでしょうか。

見沼でも見沼区の御蔵や大和田に弥生遺跡が見つかっています。稲作の影響は大きかったと思います。でも見沼には「古墳」がありません。

ということは、「長」を生まず、縄文以来の見沼の宗教文化を引き継ぐ大宮氷川社・氷川女体神社・中山神社を創建し、互いに助け合いながら小規模な稲作を続けたのだらうと思います。特に見沼の縄文時代と弥生時代が重なる頃創建の大宮氷川社は、東は現元荒川上流部－綾瀬川、西は多摩川に限られた荒川流域の開墾に当たり各地に勧請され、荒川流域にのみに鎮座する氷川221社(埼玉県に162社、東京都59社、茨城県・栃木県・北海道に各2社)の総本社です。それが今に引き継がれている、すごくないですか！！

見沼に再び光が当たるのは江戸時代以降

1590(天正18)年 家康江戸入り

1603(慶長8)年 江戸開府

1629(寛永6)年 見沼八丁堤を閉じて「**見沼溜井**」を造成し、谷古田・平柳・浦和・戸田・笹目・安行(以上埼玉)・舎人・淵江(以上都内足立区)の8ヵ領221ヵ村に用水を送る「**見沼用水**」を整備。(伊奈忠治=初代関東郡代)

1701(元禄14)年 見沼用水、元禄の頃には流末の淵江領等で水不足が深刻化。
忍藩・岩槻藩・川越藩の利害調整済みで「**見沼用水改良計画**」出願。
(桶川市五丁台で元荒川を堰止め、見沼溜井に導水。騎西領には利根川取水)

1703(元禄16)年 原市村等14ヵ村の「**見沼用水改良計画反対**」の嘆願で「見沼用水改良計画」頓挫。

1704(宝永元)年 「**宝永元年洪水**」 利根川破堤→埼玉・東京の低地水没

1719(享保4)年 「**埼玉葛西用水**」完成

1728(享保13)年 「見沼用水」の水源を利根川に求め、利根川から途中東縁と西縁に分けて八丁堤まで開削し、東縁を「見沼用水」につなぐ。(井沢弥惣兵衛為永)。「見沼用水」に変わる用水として以後「**見沼代用水**」と呼ぶ。
不要になった見沼溜井跡の新田開発を農民・江戸町人に許可。

1730(享保15)年 「**東京葛西用水**」完成 (井沢弥惣兵衛為永)

1731(享保16)年 「見沼通船堀」(閘門式運河)完成

(同様の閘門式運河：岡山県「高瀬通」1673(延宝元)年、「倉安川吉井水門」1679(延宝7)年完成)

埼玉に残された水ネットワーク

河川－海とつなぐ、

この水みちの元々は自然。

